

◆ガンダムに魅せられた青年との出会い

もう10年ぐらい前のことです。うつ病でクリニック通いをしているというその青年は32歳です。ときどきアルバイトをしているようですが長続きせず、なかなか定職につけないようです。長男の彼には、東京の杉並区に祖母が遺してくれた自宅とアパートがあり、小さなアパートではありましたが、毎月18万円の賃料収入があり、独身の彼が生活するには十分でした。

2人の妹たちは、九州やアメリカに嫁いで行って、長男の彼とはほとんど行き来が無い状態で、広い自宅に一人で住み、気ままな生活をしていました。周囲の人は、気ままな自由人としてうらやむ声もあったが、定職に就けないでいた彼は家に引きこもり、話す相手もないまま鬱状態になっていたようです。

話し相手もない青年は、気晴らしにパソコンの向かいガンダムと出会ってしまった。時々外出するときの行き先は、お弁当を買うためのコンビニ、ガンダムを買うために近くの模型店に…

やがて…毎日のように模型店の出入りするようになった青年は、僅か3ヶ月の間に100万円以上の買い物をしていました。模型店の店長も初めの内は上客の来店に喜んでいましたが、尋常ではない買い方をする青年に声をかけ、クリニック通いをしていることを知ったというのです。

青年の異常な買い物はその後も続き、余りにも生活が乱れていることが気になった模型店の店長からの紹介でその青年と会うことになりました。

●資産があるからお金が借りられた

ガンダムに魅せられた青年は、顔は青白く、髪は手入れができていなく女性のように長い。終始うつむき気味で、話して私と目が合うとすぐ逸らせてしまう。肩からタスキ掛けていた大きな鞆の鞆の中は、ガンダム関係の雑誌とショップの地図のようだった。

ガンダムに詳しい知人に来てもらい、たまたま居合わせてようにしてしばらくガンダム談義を続けてもらった。

本人も、自分では止められないガンダム買いも、これではいけないと思っていたようでした。ダラダラと続いたガンダムの会話が3時間ぐらい続き、ようやく本題の話に触れられるようになってきました。

どうしてそんなにも買い物が続けられるのか…、そのお金はどうしているのか…、どうやって生活しているのか…、と買い物依存症で苦しんでいる人の事例を話ながら少しずつ青年の実情を引き出すことに成功しました。

「実は…、サラ金からお金を借りていて、祖母から相続したアパートに抵当権が設定されているので、どうしたらいいのかわかんなくなってしまうって……」そう言ったまま、青年はしばらく沈黙がつづき、自分の胸に詰まっていた固まりがようやく吐き出せたという安堵感なのか、私から訊かれる次の言葉を待っているかのようにも思えました。

サラ金からの借入れがどうなっているのか矢継ぎ早に訊きたいところだが、じっと耐えて少しずつ話を進めていく。

「貴方の名義になっている不動産を持っていたから、サラ金でお金を貸してくれたんだ…?。」…「サラ金から何か言っ

リスク・カウンセラー奮闘記・46

きているの?」…その問いに対しての、鞆の中をゴソゴソ何かの探し始めるという状況で反応してくれた。

B5サイズのスプリングノートにはサラ金からの借り入れリストが整理されているらしく、私に見せようかどうしようかとためらう様子。

「整理できているの…?」と訊いてみたら、テーブルの少し遠い位置にノートを広げてくれた。身を乗り出すようにしてのぞきこむと、5社ぐらいのサラ金の名前が並んでいて、抵当権を設定しているという会社が850万円とダントツの金額で、その他は50万円、70万円、40万円、と最近借りたらしい20万円と…。

「自分ではどうしたいと思っているの…?」と、意識的に小さな声で訊いてみました。

「何とか仕事を探して返済したいと思っているんですけど、自分にあった仕事が見つからなくて…」と、小声で返ってきました。

定職がないから返済のメドが立たない…、返済できないから新たにサラ金から借りる…、何処にでもあるお定まりの話ですが、そんなことを繰り返していたらしい。

ガンダム買いが始まった当時は、祖母が遺してくれた預金があった。その取引銀行のお誘いで銀行系列の名前のつくクレジットカードを作ってもらい、口座からの引き落としで購入していた。

預金残高がある内はよかったです、1500万ほどあった預金も少なくなるにさすがに不安になり、サラ金との出会いが始まったようです。

●止めてくれる人がいないから…それが言い訳?

後日、青年の自宅に訪問することになりました。青年が住む築40年以上の一戸建ての家は、玄関を入ると古新聞や雑誌、通販のカatalogなどが埃にまみれて積まれていて、足の踏み場もない状態でした。

薄暗い台所のテーブルの上には、食べ終わったコンビニ弁当や食べ残しのパン、流しには洗ってない鍋やフライパンが積み上げられている。

2階にある青年の自室に案内してもらった。コタツの上にはパソコンとプリンタ、ガンダムの本、ミニスカートの女の子のフィギア、隣の8畳間には…ガンダムのプラモデル。

「いつ頃からこういう状態になったの…?」「もう、いい加減にガンダムと縁を切ったら…」と、思わず言ってしまいました。

「やめられない…止まらない…カ〜ッパえびせん…!の世界を通り越してるね…」

半分あきれはて…思わず青年に向かって言うと、「僕には…止めてくれる人がいないから…」

自宅とアパートという不動産があるから、厳密にはまだ債務超過の状態ではないけど、このまま進んでいけば債務超過になることは火を見るよりも明らかです。

リスク・カウンセラーとして、まさか…ガンダムと戦うことになるうとは想像もしていませんでしたが、その後…4年間、青年と共にガンダムと戦うこととなり、看護師となったため学校へ通うことになりました。つづく…



NEW! R.F.C+M Report

リスク・ファイナンシャル・カウンセリング+マネジメント レポート ===== 2008年3月号

●早期発見、早期対策では遅すぎる!

リスク・カウンセラーの仕事が、今のままでいいのだろうか…。いつも悩んでいます。

新聞やテレビで見る毎日の出来事をひとつひとつ検証していくと、ほとんどの事件・事故が起こるべくして起きていることに誰もが気がつくことばかりです。

「因果関係」が誰にでも想像がつくことばかりだと云うことです。この原因があるのならこういう結果になってしまうのは当然のことと感ずることばかり…。

「枝が蕾が萌えると…やがて花が咲く」ということのように、トラブルの蕾を見つけてから慌てても事すでに遅し。それでも、何もしないで放置しておくよりは、それなりに対処しておくことが重要であるには間違いありませんが…。

「癌が見つかったけど、レベル1だから助かった…>早期発見でヨカッタ…」

「脳梗塞で倒れたけど、一命を取り留めてよかった…」速く対処出来てヨカッタ…」

そんな話をよく耳にしますが、早期発見、早期対処は確かにヨカッタのでしょう…。でも…「こうすると癌になりやすい…」と云われている悪しき「生活習慣」になっていることを癌になる「兆」しと捉えて悪しき生活習慣を改善しようと毎日実践する人、「こうすると脳梗塞になりやすいから気をつけて…」と云われている生活習慣を正しい生活習慣に改める人、そうした実践行動を踏み出すことこそ、リスク回避の特効薬だと考えるべきなのではないでしょうか。

問題の「早期発見」と「早期対応」のプロセスでは、リスクをどれだけ少ない状態で解決できるかと云うことにすぎなく、決して、リスクを回避するための手段にはならないのです。

●一見して因果関係がない無いようでも…

トラブルを抱えて悩む多くのご相談者の嘆きの言葉にも、トラブルが解決した最後になって…

「もっと早く先生に相談に来ればよかったんですね…」と、自分が決断した時期が遅かったことを、いつまでも悔やんでおられます。

それでは、「もっと早く…」とは、どのぐらい早ければよかったということなのでしょう。

経営者の場合は、どのような段階で気づけばよかったのでしょうか。

身近なところでは、人生経験豊かな親の言葉や毎日の言動を見ている家族からの言葉があるでしょう。また、社内では、資金繰りに関わる「B/S」「P/L」の状態、社員の言葉や身のこなし、取り扱い商品の品質状態や荷動きの状態、書類の流れや整理整頓の状態、会社に入出入りする人々の様子など。また、社長や会社に関わる取引

リスクの回避には…早期発見でなく…予知、予見能力と実践力が必要です

先の人々の助言や顧客のクレームなどもリスクの兆しを観るのに貴重な情報源だといえます。

【事例】通路にゴミが落ちている。トイレのタオルがいつも濡れている。枯れかかった植木が飾られている。社員が指示された仕事しかりしようとしていない。

それから半年後…商品の品質不良が多発し、それがリコール問題にまで発展して経営危機に陥った。誰かがやるだろう…という社員の意識の低下と、管理者の指示が十分に行き届いていなかったようです。

それでは、個人の場合にはどうでしょう。自分と家族の健康問題や、不動産、預貯金、投資、保険などの経済問題があり、親族間、近隣、友人との人間関係、契約事項や権利関係を未解決のまま問題を先送りしているものはないか…などに起因するリスクが考えられます。

家族の健康管理は、家庭の中の最大のリスク回避が必要だといえます。

夫が死ぬ、妻が死ぬ、夫が倒れる、妻が倒れる…となると、家族の形が一変してしまいます。いや、家族の一人がちょっと怪我をしただけでも生活のリズムが変わってしまいます。

【事例】妻が頻繁に怪我をする…。妻が最近胃の痛みを訴えている。妻が頻繁に外出するようになった…。その妻は、サラ金と信販カードの

支払いに追われ、月末近くになると借りては返しの繰り返しをしていた…。カードローンやサラ金返済のことを考えながら家事をしていて、家にも虚ろな状態だったようです。

●兆しを見つけても、実践しなければ意味がない…

何だかおかしい。今までと何かが違う。何かが観える。空気というか風の流れというか…水の流れか…声の響きか…。たとえば家族に小さな変化を見つけたら、声をかけて確かめ合うことで危機を回避できるのです。

至るを知りてこれに至る。ともに機すべきなり。

と云う言葉が易教の中にあります。自分の目の前に起きていることを、何も意識せずに…ただ漫然と見ているだけではないけないのです。

人が見逃してしまおうようなことでも「機=兆し」を観る(見るではない)ことができる洞察力が磨かれると、多くのことが予知することが出来るようになるようです。

経営者が気づかず、他の役員や顧問税理士などがその兆しを見つけたのであれば、すぐさま社長にその事実を伝えるのです。それを受けた社長は、早々にしかるべき手を打つことによってトラブルの発生を回避することが出来るわけです。これぞ「リスク回避」なのですね。



し間の裁てが三側日はあ樞の比iriが入谷かまあ口がたり園でししょう。寄かも東京とにす。道時本地

：ら木とまのでつ公まと寄あてしら満す
。そ三のしす巢し、マ園だしつる仕いなに開で梅
うつ枝で利用のた春タ山やて二事す。が吹にに園
呼にが利三よをの登のれ吉のす。らく咲この
ば分伸極うそ告のっ梅て花野帰空春きぼ都
れかびりはなれればみ見梅に高風乱れ心
てれるさされて和形はてみには三分しら一青舞香`ば咲く
いるといま紙を小いが膨ききが梅立市梅
たこきまのしさる膨ききが梅立市梅
とにす。材てなよら。見ちに
かか必。料い蜂うん

春されば
まず三枝(なまき)の
幸(き)くあらは
後にも逢はむな
恋ひそ吾妹(わぎも)
(柿本人麻呂)

ちよつと歳時記

◇発行者 株式会社 ホロニックス総研
◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟 士
◇連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12
TEL. 03-5684-0021 FAX. 03-5684-0031
<http://www.holonics.gr.jp>
【ホロニックス】
(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。
すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。
生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を發揮する一方でそう
した個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)

